

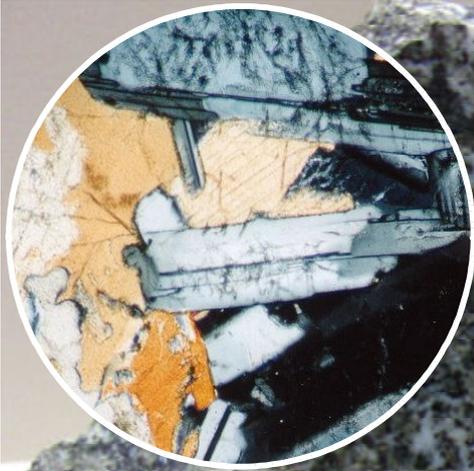
地下のマグマ活動

岩石名 斑れい岩 Gabbro
(はんれいがん)

時代 新生代第三紀中新世

地質区分 日高火成岩類

産出地 士別市朝日岩尾内湖



斑れい岩の薄片写真



解説



岩尾内湖の斑れい岩の露頭

です。

岩尾内湖の柵留（サックル）林道には、縞状構造を持つ斑れい岩や、黒雲母を含む斑れい岩など、様々な珍しいタイプの斑れい岩が見られ、この地域の斑れい岩が“ただものではない”というこ



石碑に利用されている朝日の斑れい岩とを教えてください。様々な条件で形成されたり、後で変成を受けるなど、特殊な状況に置かれた歴史があったということでしょう。多くの研究者が岩尾内湖周辺を訪れ、斑れい岩や緑色岩の研究を行っています。

■いろいろな種類の斑れい岩■

士別市朝日の岩尾内湖周辺には、トロクトライト、かんらん石斑れい岩、ノーライト、斑れい岩ペグマタイトなど、何種類もの斑れい岩の仲間が観察されますが、大きく分けて中生代のものと新生代のもの両方があるようです。中生代のものは、白亜紀の海洋プレートの部分溶融によってできた斑れい岩であり、新生代のものは、新第三紀の日高火成活動による斑れい岩

調べてみよう

- 斑れい岩の薄片を観察して、鉱物の大きさを調べてみよう。等粒状組織を確認できるかな。